

お金をいかす心



おかげさまでありがとうございます。

本日は、皆様に「お金をいかす心」についてお話したいと思います。

この世の中で大切なものは人それぞれありますが、「お金さえあれば」と思われている方は非常に多いのではないのでしょうか。恐らくいらな思われている方はいらつしやらないでしょう。ただ、お金の捉え方、いかし方は人それぞれ全く違うのではないのでしょうか。

お金は、人を喜ばせることもあり、救うこともありませんが、それで人を傷つけ、殺すこともあれば、ご自分の人生をダメにすることもあり。このようにお金は使い方によって、人間に最高の満足を与える反面、一つ違えば人の心を変える大変こわいものでもあります。

昨今の世の中では、パソコンで一日に何億円というお金を一瞬にして動かすことができ、巨額な利益を生み出すこともできます。ボタン一つで簡単に何億円というお金を動かす話をよく聞きますが、それは金銭感覚が麻痺し、もはやマネーゲームのようになってしまっているのかもしれない。それは単にお金を手に入れることに価値を求めているだけで、お金の操られているかのように感じられるのです。

もちろん私も、お金はとても大切なものだと思います。日々の生活を送るためにも、お金は必要です。しかし、お金がたくさんあればそれだけで幸せなのでしょうか？

本来お金というものは、その人にとって価値あるものを得るために使われるものです。その価値を知り、お金と引き換えにそれを得た時のことを思い起こしてみてください。「うれしいなあ。幸せだなあ。」という喜びの気持ちでいっぱいでしょう。こうした気持ちで使うお金は、幸せにあふれています。

どんなに小さな額でも幸せを感じ大切に使用すれば、また誰かがそのお金を使うことで新たな幸せが生み出され、皆さんの誰もがお金によって幸せを得ることができのです。大切なのはお金そのものよりも、使う時の気持ちなのです。

私は幼い頃から始めた修行やこれまでの人生を通じて、神の導きにより心温まるお金や心痛むお金と、たくさん巡り合っていました。

私が、ある縁を以つて信仰の道に入ったのは小学校五年生の時でした。それ以後は一心に修行をし、二十歳代で神より天啓を受け道場を開堂し、一人でも多くの人をお幸せにするべく、今日までお導きさせていただいております。

開堂した当時は看板を掲げていたわけでもなく、「平等に世の中の方を一人でも多くお幸せにしたい」という気持ちだけで皆様をお導きしておりました。

当時は両親と暮らしておりましたので、皆様方からお金を頂く



太魂教会
主管 浅田妙浄



ことなく、ご先祖様のお供養をさせて頂いております。しかしある時、師匠から「お前が無償で人を救い功德を積んでも、その徳分は救われた方々ではなく全てお前に返ることになる。」と大変叱られたのです。私はその言葉にハツとし、皆様が汗水流して手に入れられたお金を、喜びと感謝のお気持ちでいかすからこそ、そのお心が仏に通じ、因縁が浄化され、皆様が救われるのだ。本当に皆様をお救いするためには私が全てをやっているとはいけないのだと気づいたのです。

ある日、赤ちゃんを助けて欲しいと、ご両親が連れてこられました。お話をうかがうと、医師より余命わずかだといわれ、わらをもすがお気持ちで大病院から連れ出し、私のところに来られたのです。その赤ちゃんを救うべく懸命にご家族と共に頑張らせていただき、何とか命をお救いすることができました。早いものでその方ももう四十代におなりました。

その赤ちゃんの命をお救いした際、ご両親は涙を流されながら、精一杯の真心で神棚に感謝の気持ちをお供えされました。このお金が私様様の命をお救いして神より頂く初めてのお金となりました。こうした幸せあふれるお金を何とかいかしたいと一層修行に励み、新たにほかの方々をお救いすることができるようになったのです。

このように幸せあふれるお金は、新たな幸せを生み出します。自分にとって価値あるものにお金を使うことに感謝をし、たとえ一円のお金でも無駄遣いせず、大切に使うという気持ちがあれば、お金を通して世の中に幸せを広めることができるのだと、私は自らを通して悟ったのです。

お金をいかしてさらなる幸せを生み出せるか否かは使う方のお心次第です。

お金を通して幸せな世の中にするためにも、今ご自分がおかれた立場、そして働けることに心から感謝し、神仏のご加護のもと、慈悲の心でお徳を積み、幸せを感じる素直な心でお金を大切に使うてください。

皆様が心豊かにお過ごし、お金をいききた財産とされ、更なるお幸せな人生を歩まれますように。

おかげさまでありがとうございます。

合掌

太魂教会 主管 浅田妙浄法尼の横顔

昭和十六年、大阪に生まれる。小学校五年のときから、厳しい修業の道に入り、若くして滝行、護摩行、山行等を修め、師匠からも二目置かれるほどの「修行者」となる。二十歳過ぎに、主神「秋津天御親太御魂大神」の天啓を受け不思議な神力を授かり、以来太魂教会を興こし、多くの人々を幸福へと導く。その功績著しく修業をした本山「妙見宗本滝寺」より、昭和五十九年一般僧侶高位【僧上】の僧階を授与される。